

リーフレット「生きる力を育てるためのキーワード集」

(第5号)発行にあたって

京都教育大学 教職キャリア高度化センター

センター長 原田 信一

平素は、京都教育大学 教職キャリア高度化センターの取組にご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

このたび当センターでは、教育改革に関する重要用語を解説するリーフレット(第5号)を発行いたしました。2021年1月に中央教育審議会から「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」が答申されたことに伴い、今年度より本リーフレットでもその答申を読み解くための用語を取り上げております。解説をしている用語は下記の通りです。

- | | |
|--------|---------------------------|
| p. 5-1 | ラーニングコンパス2030 |
| p. 5-2 | エージェンシー
コンピテンシー |
| p. 5-3 | 探究的な学習
デジタル・シティズンシップ教育 |
| p. 5-4 | データリテラシー
ファシリテーション |

また、p. 5-5では各用語の参考文献を掲載しております。

本リーフレットを京都府・京都市内の先生方にお届けすることを通して日々の教育実践の一助となることを願っております。

なお、ご関心をおもちになった内容につきましては、京都教育大学「先生を究める Web 講義」も、あわせてご活用いただければ幸いです。

先生方の益々のご活躍とご健勝を祈念しております。

「生きる力」を育てるためのキーワード集（その5）



—— 中教審答申「令和の日本型学校教育」を読み解く ——

ラーニングコンパス 2030

ラーニングコンパス（学びの羅針盤）は、OECDのEducation2030プロジェクトの成果で、教育の未来に向けての望ましい未来像を描いた進化し続ける学習の枠組みとして示されたものです。未知の状況の中で自分たちの進むべき方向を見つけ舵取りをするという意味を込めて「コンパス（羅針盤）」と名付けられています。目指すべき目標は「ウェルビーイング（Well-being 2030）」です。ウェルビーイングとは、「より良く生きること＝幸せ」という意味ですが、個人としてのウェルビーイングだけでなく、集団としてのウェルビーイングも含まれています。その中で「変革をもたらすコンピテンシー」（コンピテンシーについては後述）として、「新たな価値を創造する力」「対立やジレンマに対処する力」「責任ある行動をとる力」が重要な力として定義されています。身に付けるべきコンピテンシーを構成する要素として「知識」「スキル」「態度」「価値」を挙げており、学習指導要領もこの流れを把握したうえで制定されているものといえます。

Q ラーニングコンパスの背景となる VUCA の時代とは？
&

A VUCA とは、Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の頭文字を取った造語で、あらゆるものを取り巻く環境が目まぐるしく変化し、将来の予測ができない状況を意味する言葉です。曖昧な物事や未知の事象に意味づけをし、自らで答えを出し行動できるマインドやスキルが求められています。

エージェンシー

予測が困難な状況の中で、自ら課題を発見し、考え、主体的に判断して行動し、問題解決する資質・能力が重要であるとされています。OECD ではこうした力をエージェンシーと呼び、「私たちが実現したい未来」の創造に向けた「変革を起こすために目標を設定し、振り返りながら責任ある行動をとる能力」と定義しています。エージェンシーを育むことにより、子どもたちはモチベーション、希望、自己効力感、そして成長をめざす態度を支えとして、個人と社会のウェルビーイングに向かって自らを方向づける（幸福な人生とよりよい社会の創り手になる）ことができると考えられています。

個人の成長、社会の変化を目的とするエージェンシーは、現行の学習指導要領に謳われる「主体性」や「学びに向かう力」に近いものですが、道徳的、社会的、経済的、創造的といった生活のあらゆる文脈において発揮することができる、より広い範囲に及ぶ概念と言えます。

Q 「共同エージェンシー」とは？

A 生徒のエージェンシーは、アイデンティティー、所属感、モチベーション、希望、自己効力感、成長する思考態度（能力や知能は発達可能であるという理解）、そして目的意識と関連があるとされています。予測が困難で、大人でさえ必ずしも答えを持っていない課題を乗り越えるためには、多様な他者と学習を共に構築し、答えを共に探究していくことが求められます。共同エージェンシーとは、生徒が仲間や保護者、教師、コミュニティと双方向的に影響を与え合う関係であると定義され、この関係の中で互いに教えと学びの過程の共同制作者となり、効果的な学習環境が構築されるとされています。

コンピテンシー

コンピテンシーは、1997年のDeSeCo（「コンピテンシーの定義と選択：その理論的・概念的基礎」）プロジェクトで、定義づけが新たになされ、その中で、キーコンピテンシーと呼ばれる能力は、省察性をその核に据えつつ『相互作用的に道具を用いる、異質な集団で交流する力、自律的に行動する力』の3つのカテゴリーに分類されています。OECD Learning Compass 2030では、子どもたちが、世界に貢献し、その中で成功し、よりよい未来をつくり出すために必要な力として「変革を起こす力のあるコンピテンシー」を定義し、「新たな価値を創造する力」、「対立やジレンマを克服する力」、「責任ある行動をとる力」が重要とされ、これらの学びを進めていくためには、学習や活動の中で「見通し」、「行動」、「振り返り」を繰り返し働かせることとしています。また、『令和の日本型学校教育を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について』でも、子どもたちがウェルビーイング（Well-being）を実現していくためには、子どもたちと同様、教師自身の「自ら主体的に目標を設定し、振り返りながら、責任ある行動がとれる力を身に付ける」必要があるとしています。

Q 「資質・能力」という用語との関係は？

A コンピテンシーは、単なる知識やスキルの習得にとどまらず、不確実な状況における複雑な求に対応するための知識、スキル、態度及び価値の活用を含む概念であり、未来をより良い方向へ変えていくために必要な「資質・能力」を指しています。

探究的な学習

探究的な学習とは、児童生徒自らが課題を設定し、解決に向けて情報を収集・整理・分析したり、周囲の人と意見交換・協働したりしながら進めていく学習活動のことです。学習では「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の過程を経て、さらにこのサイクルが発展的に繰り返されます。ただし、この流れは学習のねらいや目的、特性により順序が前後する場合があります。この繰り返しの中で、児童生徒の思考力や判断力、表現力などの育成を目指します。

教科学習では各教科における必要な知識の獲得をさせ、それら複数の知識を関連付けることにより、教科におけるものの見方・考え方を育みますが、探究的な学習では教科の枠にとられない横断的かつ総合的な問題解決の能力を養います。よって小学校や中学校では「総合的な学習の時間」、高等学校では「総合的な探究の時間」などの授業において取り入れられることが多いのですが、全ての学習活動において取り入れていくことが必要とされています。

Q 総合的な学習の時間と総合的な探究の時間の違いは？

&

A 総合的な学習の時間は、自分の生き方について考えながら課題を解決していく能力の育成であることに對し、総合的な探究の時間は、自分の生き方だけでなく“在り方”を考えながら課題を“発見”して解決していく能力を養うことを重要視しています。

総合的な学習の時間において探究的な学習が取り入れられることが多いと先述しましたが、全ての学習活動において在り方を考えながら課題を発見させるための「発問」の内容と質が重要です。

デジタル・シティズンシップ教育

デジタル・シティズンシップとは、デジタル技術を用いて積極的に社会に参加し、健全で責任ある市民となるためのスキルやマインドセットを指します。学校教育においても子供たちのデジタル・シティズンシップを育成することは喫緊の課題になってきています。

デジタル・シティズンシップ教育は、優れたデジタル市民になるために必要な能力を身につけることを目的とした教育であり、スマートフォンやタブレットなどデジタル端末の急速な普及に合わせ、世界各国や国内での取り組みがはじまっています。これまで学校では、ネット上の権利問題や犯罪被害の危険回避、ネット依存防止など、主として子供たちの行動を抑制するような情報モラル教育が行われてきた側面がありましたが、デジタル・シティズンシップ教育は、同じデジタル社会における行動を扱いながらも、デジタル社会でよりよく生きていくために必要な資質・能力を育てるという立場をとって、より自立的にデジタル社会を生きる姿を目指しています。

Q デジタル・シティズンシップ教材の具体例とは？

&

A 総務省情報流通行政局情報流通振興課情報活用支援室の「上手にネットと付き合おう！～安心・安全なインターネット利用ガイド～」において、保護者・教職員向けに『家庭で学ぶデジタル・シティズンシップ』をあげています。

データリテラシー

リテラシーは「読み書き能力」を意味する語ですので、データリテラシーは「データの読み書き能力」ということになります。データがどのような方法で収集されたものなのかということを確認する力や、データで示されていることを正確に読み解く力、データをもとに適切に分析したり解釈したりする力、さらにはデータを活用して問題解決にあたる力だと言えます。情報化社会の進展に伴い、社会に流通する情報量が爆発的に増加し、その利活用によってより良い問題解決ができる人材が求められています。

Q 学校現場ではどんな場面でデータリテラシーが必要か？

&

A 文部科学省より数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）として、全ての学生に基本的なリテラシーを身に付けさせることが求められており、小、中、高等学校においてはこれらの素地を育む必要があります。また、GIGA スクール構想によって学習者に1人1台端末が整備されたことにより、様々な学習ログの取得が可能になりました。そのデータを利活用して授業改善が進められるよう、教師自身にもデータリテラシーが求められます。

ファシリテーション

教育におけるファシリテーションは、児童生徒あるいは学生を被教育者ではなく学習者として参加させ、彼らの経験と知識を表出、共有、自己有用感を高めるように支援する方法をテーマにします。教員はファシリテーターとしてこの役割を担い、学習者に問いかけ、議論を主導し、積極的な参加を通じて学習へと導きます。ファシリテーターは、知識の伝達者に留まらず、学習者の気づきを促し、批判的思考や問題解決能力を培う役割も果たし、教材や ICT を活用して、学習を豊かな体験に変えます。ファシリテーターはこの過程の調整役として、学習者が共感、協力、成長する機会を提供します。

Q 授業でファシリテーションとは？

&

A 学校でのファシリテーションとは、スキルの問題に限らず、授業者の変容を求めるものです。従来の講義型の一斉授業から、参加型で対話的な学習への移行を促進しようとするこの発想は、VUCA とも言われる複雑で曖昧な現代の諸課題に臨む上で重要な視点を与えるものでしょう。

※京都教育大学 **先生を究める Web 講義**の詳細については、下記ホームページをご覧ください。

<https://www.kyokyo-u.ac.jp/Cece/2022/03/web-lecture.html>

【発行】令和6（2024）年2月1日発行

【編集】京都教育大学 教育創生リージョナルセンター機構 教職キャリア高度化センター
〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1番地

【執筆】椋山直美・市田克利 p.5-1 下段 山下和美・榊原禎宏 p.5-2 上段

吉川孝・榊原禎宏 p.5-2 下段 米澤武史・小山宏之 p.5-3 上段 市田克利・大久保紀一郎 p.5-3 下段
大久保紀一郎・原田信一 p.5-4 上段 中垣ますみ・榊原禎宏 p.5-4 下段 （いずれも京都教育大学教員）

※各キーワードの参考文献等は、次ページに記載しております。ご参照ください。



<参考文献等>

● 「ラーニングコンパス 2030」「エージェンシー」「コンピテンシー」

- ・白井俊(2020)「OECD Education2030 プロジェクトが描く教育の未来」ミネルヴァ書房
- ・OECD「2030 年に向けた生徒エージェンシー」
https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/student-agency/OECD_STUDENT_AGENCY_FOR_2030_Concept_note_Japanese.pdf

● 「探究的な学習」

- ・文部科学省「今求められる力を高めるための学習指導」
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2011/02/17/1300464_3.pdf

● 「デジタル・シティズンシップ教育」

- ・総務省「上手にネットと付き合いおう!～安心・安全なインターネット利用ガイド～」
https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/parent-teacher/digital_citizenship/

● 「データリテラシー」

- ・数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(文部科学省)
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/suuri_datascience_ai/00002.htm

● 「ファシリテーション」

- ・中央教育審議会答申(2022)
https://www.mext.go.jp/content/20221219-mxt_kyoikujinzai01-1412985_00004-1.pdf
- ・堀公俊(2018)「ファシリテーション入門〈第2版〉」日本経済新聞出版
- ・片山紀子・若松俊介(2019)「授業ファシリテート入門 教室に話し合いを降り入れて深い学びを実現」ジグアイ社
- ・京都教育大学 先生を究める Web 講義「ファシリテーション基礎編1・2」「ファシリテーションでチームを活性化させよう!～チームファシリテーションの基本～(前編・後編)」

